天　界

（第六卷）　第六十八號　大正十五年十月

學術協會の總會を京都に迎へて

（卷頭言）

昨年の秋、東京で發會した日本學術協會（Japanese Association for the Advancement of Science）の第二回總會が、今秋は京都で開かれる。日は十月十六日から同十九日までの四日間で、好氣節であるから、うまく行けば人は可なり集まるわけであるが、しかし、實を言へば、我が國に此の會の趣旨が未だ好く知れてゐないから、果して幾人の會員が來集するかは疑問である。

いつたい此の種の會は英米獨佛などの各國に早くから存在し、各種の學術の進歩と、連絡と、研究と、普及とのために、所々で有益な大集會が催されてゐる。會の組織は國によつて多少異ることもあるが、要するに上記の目的を以つて、年に一回づつ、國内に於ける學術の總動員が行はれると見れば好い。我が國は今年が第二回の總會であつて、一般の國民が會の性質を好く知らないのみならず、會の幹部たちの中にも、會の主義、精神、方法、目標などに就て意見が區々であるらしいが、しかし上述の大目的から見れば、學術各部の連絡と一般社會への普及とに全力を注ぐべきものであるは勿論である。（學術の研究のためならば他にも多くの機會はあるのであるから。）しかるに、學術の普及を俗化と誤信し、又、各部の連絡を不必要と考へ、學術や學者の威嚴云々に囚はれて、主なる目的に進み兼ねてゐる理事があるやうであるのは遺憾である。よろしく、會を速やかに十數箇の部に分ち、各部と其の相互の機能を發揮し、學者間の意志疏通を進め、又大に一般民衆に學術の目的と價値とを訴ふべし。

本來、わが天文同好會の趣旨や目的は、或る意味に於いて、學術協會のそれと同一である。此の意味からして吾人は本會の發祥地に學術協會の總會が開かれることを歡迎し、此の機會を以つて態々此の地に本會の特別會合を催ふすのであつて、表面上の名は別ではあるが、廣き見地より見れば、學術協會の一部分として活動してゐるとも見られるのである。本會々員諸氏は此の際奮つて京都の地に來集し、本會の總會や展覽會を賑はされると共に、大に學術協會の諸集會にも參加せられんことを望む。（山本）